

左報
第47号

上野東部だより

2020年12月1日
発行
東部地域住民自治協議会
総務広報部会
伊賀市緑ヶ丘東町920
上野東部地区市民センター内
TEL・FAX 24-3999

第一回地域食堂 パプリカ 開催



8月9日(日)午前10時30分から東部地区市民センターにおいて、東部地域住民自治協議会、健康福祉部主催(JAいがふるさと、サンショク協賛)の地域食堂「パプリカ」を伊賀市で初めて開催。参加者は約30数名でした。

「パプリカ」は昨年のレコード大賞受賞曲で、また2020年東京オリンピックの応援歌でもあることから、広く多くの住民の方に愛される地域食堂になるようにとの願いを込めて命名されました。

この地域食堂は、「食や学び、また遊びを通じて、子どもから大人まで明るく楽しいふれあいの場を提供したい。」との思いから開催の運びとなりました。

最初の学びタイムでは、オセロ、折り紙コーナーが設けられ、紙飛行機を折って、飛ばしあい競い合うな

ど楽しく交流しました。11時30分からは、1階で食事タイム、手洗い、ソーシャルディスタンスの確保など感染防止対策を行い、3班に分かれ、順に手づくりのカレーライスを頂きました。

家庭の味を再現しながらも本格的な味付けされたカレーライス、御家族で参加された両親、子どもたちは口いっぱい頬張りながら「おいしい、おいしい」と言って召し上がっていました。参加者からは「このような時なので参加するのに二の足を踏みましたが、近場でのできました。来てよかったです。ありがとうございます。」との声も聞かれました。

子どもさんには、「バルーンアート」がお土産に渡されました。この地域食堂「パプリカ」は毎月第2日曜日10時30分から開催を予定しています。

〈取材：鷹森 由紀子〉

「こんな事しらなかつた」と



10月31日（土）秋晴れの中、「第13回東部地域住民自主防災訓練」を実施しました。今年は昨年同様伊賀市民体育館での防災訓練となりました。



伊賀市長
岡本 栄



東部地域住民自治協議会
南会長



伊賀消防署
西森 副署長



防災防犯交通安全
村田 部会長

受付時から訓練が始まりました。まず非接触の検温を済ませた後、出欠を受けます。その次にマスク着用しその上にフェイスシールドを着用して、簡易の防護服（ビニール袋でつくられたもの）をきて、手指を消毒してビニール手袋を着用後、次の受付者の検温をします。防護服・ビニール手袋は廃棄します。以上の順番で検温受付を次々と順繕りに交代していました。これもコロナ禍のなかでの訓練でした。

主催は東部地域住民自治協議会で、共催：伊賀市、後援：伊賀市消防本部のもとで、各町、各団体より1名の制約のもとで参加者60名のなかで防災訓練がおこなわれました。



○×防災クイズ



関連団体紹介

今年はNPO法人つた丸様、伊賀ボランティア様の協力を得て、あとで紹介する「○×クイズ」「HUG」のゲームで今までとは違う訓練がありました。また、避難所で必要となる間仕切りのアイデア展示もあり、変化のある防災訓練でした。

イザ災害に会うと色々な場面に遭遇し困難なことに対応しなくてはならないことがあります。そういう状況を前もって想定し、体験していくことが大切であると実感した1日でした。

避難所運営に関する問題を ○×方式で全員参加

東部地域住民のかたへ防災アンケートと同じようなクイズが出題され、参加者は思考しながら、右へ左へと○×のゾーンへ移動して回答してました。

あらためて、勉強させられることがありました。

たとえば、「大人一人に必要な飲料水は一日3リットルです」というクイズがありました。これは「○」です。私は2リットルと思い込んでいました。

また、「避難所の運営は基本的に行政が行う」という質問にも「○」と考えてましたが、正解は「×」です。災害に会うと、行政もすべて対応できなくなることが多いあるということからです。

各団体を把握することは、 避難所運営する場合は必要

伊賀市総合危機管理課、消防署、消防団（上野中分団）、伊賀警察署、伊賀市災害ボランティアセンター、NPO法人つた丸、応急危険度判定士等の紹介がありました。

自主防災訓練

防災訓練2020

リアルHUGの訓練

(避難所にどのようなことをもちこまれても解決していかなければならない、地域で検討しておく必要がある)

「HUG」とは避難所 (H)・運営 (U)・ゲーム (G) の頭文字をとった名付けられたようです。チームで対応者を選定交代して、いろんな状況に対応していくゲームです。

1. 「発熱者が来場した時」

避難所には多数の人があられるので、気分を損ねないように車等へ移動して、隔離の対応を取る必要があります。

2. 「外国人が来場した時」

外国の方への対応は、孤立しやすい立場ですので寄り添う形での対応が必要のようです。

3. 「スーパーボランティア尾畠さんが来場した時」

4. 「報道陣が来場した時」

5. 「赤ちゃんを抱かえた女性が来場した時」等の対応に苦慮する場合ばかりでした。避難所という異常時での特殊な場所ですので、「粘り強く、また根気強い対応」が大切と感じました。

講評では、「東部地域の方は優秀でよく対応できました」というお褒めの言葉もいただきました。

コロナ禍のなかでの訓練で、十分な距離間をもって運営され、「2メートルの距離を置いてください」とプラカードで「注意喚起」されていました。

コロナ感染対策(間仕切りのアイデア展示)



◀ 青色シートと支え棒を利用した間仕切り。ホームセンターでも買えるものを利用しています。携帯ランプも準備され、枕、簡易ベッドは発泡スチロールでできており暖かく使えるものでした。

- ・製作費用: 16,000円
- ・製作時間: 50分



◀ ベニヤ、木材で造った間仕切り、日曜大工が得意な方が造れるもの。組み合わせによりいろいろな仕切りにも対応できるものです。

- ・製作費用: 50,000円
- ・製作時間: 3時間30分



◀ 発泡材と縦棒を利用した間仕切り。ホームセンターでも買えるものを利用しています。

- ・製作費用: 16,000円
- ・製作時間: 35分

また、コロナ禍のなかで形を変えた訓練を企画していただいた各団体の方に感謝の思いをいただきました。

貴重な半日でした。ありがとうございました。

リアルハグ

(避難所運営シミュレーション)



発熱者が来場した時



外国人が来場した時



スーパーボランティアが
来場した時



赤ちゃんづれが来場した時



間仕切りのアイデア展示

(取材:山本 史規)

避難所マニュアルについて ⑩

東部だより第35号から避難所マニュアルの重要なところを掲載しています。第1回は「各自治会別災害時の避難場所」、第2回は「避難所開設・基本方針について」、第3回は「災害発生～避難所開設・運営・撤収の流れについて」、第4回は「災害発生～開設までの流れについて」、第5回は「災害発生から開設までの役割による人の流れについて」、第6回は「避難所開設～運営の情報伝達のしくみ」について掲載しました。第7回からは「災害が発生したらまず身の安全確保・避難～避難所運営体制づくり～避難所運営～避難所撤収・閉鎖」まで数回にわけて掲載しています。前回は「運営体制づくり」を掲載、今回は各班の役割です。

各班の役割

1. 代表者・副代表者の役割

- 要援護者への配慮
- 管理・運営の申合せ
- 施錠管理者及び災害対策本部との調整・統括
- 避難所運営委員会の統括、組織内の連絡調整・指揮及び関係機関等との連絡・調整

2. 総務班の役割

- 運営委員会内の連絡・調整
- 代表者会議の準備・記録
- 災害対策本部及び関係機関との連絡・要請窓口
- 外部との窓口
- 避難者からの意見・要望の受付
- 在宅避難者からの意見・要望受付

3. 情報班の役割

- 情報収集と総務班との連絡・調整
- 収集した情報の多様な手段での避難者等への提供
- 要援護者や在宅避難者に配慮した情報提供
- 外部への避難者情報の提供

4. 被災者管理班の役割

- 避難者の把握・リストの作成、避難者等の入退所管理
- 訪問者の受付、マスコミ等部外者の入出管理
- 郵便・宅配便の受付・避難者への手渡し等



5. 施設管理班の役割

- 施設の警備による防犯、危険箇所への対応
- 施設利用場所の選定と利用計画の作成

6. 食料物資班の役割

- 救援物資・日用品物資の調達・管理
- 避難者への配給
- 在宅避難者への配給方法の掲示・配給

7. 救護班の役割

- 傷病者への対応
- 要援護者への対応
- 避難者の健康状態の確認

8. 衛生班の役割

- 感染症予防(手洗い・消毒の励行推進)
- 生活衛生環境の管理

9. ボランティア班の役割

- ボランティアニーズの把握・受付
- ボランティアの要請
- ボランティアの配置・調整



*次回は避難所運営「運営活動のルール～運営に当たって考えておくこと」について掲載します。

街角の話題

化石採集は宝探しのようなもの

まちかど博物館

北田化石展示室

上野玄蕃町 北田 稔 様

■興味を持ったきっかけは?

生まれ育った阿波の川原で化石が発見されていたこともあり、小学校の自由研究で集めたことがきっかけです。さらに友達の持っている化石に魅せられて、こんな美しい化石を何とか探したい思いで、引き寄せられていきました。

地元には経験者が少ないので、社会人の時に近鉄主催の自然科学研究会に入り、化石採集に参加しました。そこでは、大学生に指導を受け、他県の人との交流の輪が広まっていきました。

■良かったこと、嬉しかったことは?

化石を発見した時の情景を思い出したら、心が落ち着きます。宝探しをしているようなものです。発見したものを先生に調査・研究してもらい、明らかになったときは嬉しいです。個人所有で死蔵してはだめです。展示をして、多くの人に見て貰うことが大切と考えます。

■苦労されたことは?

大水が出た後、川原の流れが変わり水が引くタイミングを見極めることに苦労しました。



〈魚の化石〉



〈恐竜の歯〉



〈一志層群・阿波層群の化石〉



〈ナウマンゾウの臼歯〉

■今後の夢は?

服部橋上流あたりで、植物や足跡(ゾウ、ワニ、鳥など)を発見出来る可能性がありますので、楽しみにしています。また、いつか新種を発見して、自分の名前をつけることを夢見ています。

(取材:安場 豊)

文化講演会「城下町建築散歩 伊賀上野は文化財の宝庫」開催

10月10日(土)午後1時30分から東部地区市民センター3階ホールで、東部地域住民自治協議会(教育文化スポーツ部会)主催、伊賀市文化財保護審議会会長 滝井利彰氏をお迎えして、「城下町建築散歩—伊賀上野は文化財の宝庫」と題してご講演をいただきました。参加者は17名でした。

滝井氏は、建築の仕事がら、文化財の中でも建造物を専門にしておられ、ふるさとに帰って町を歩いて文化財の建造物がたくさんあることがわかったとのことです。県内の国重要文化財・県指定有形文化財の3割、国登録文化財の2割が所在する文化財の宝庫といえる地域であることを改めました。

特に城下町エリアでは、初公開の城下町案内マップとともに、200メートル歩けば必ず文化財建造物を見学できる宝庫。伊賀文化産業城、伊賀鉄道上野市駅等々1件づつ順に建造された歴史的背景や特色について説明いただきました。

建造物の説明だけでなく、文化財とは、文化財の種類、城下町伊賀上野の成り立ち等幅広く説明があり、建造物の劣化はさけられず、中でも上野城の損傷は著しく今後の大きな課題である、そして文化財は守り、活用することが大切であると話されました。



編集後記

今年も残すところ、後1ヶ月となりました。今年は、新型コロナウイルス感染症の発生により、世界各地で猛威を振るい、日本でも緊急事態宣言が発令され、さまざまな行事が自粛されたりと大変な生活を強いられ、生活様式も一変してしまいました。

しかし、あれこれ心配していても日常は続いています。感染症対策をしっかりと守り、一日も早いワクチン、特効薬の開発で明るい未来を期待したいものです。

(居附 陽子)

ホットヨーカー

「迫りくる年末感」

